

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 11 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008 ～ 2011

課題番号：20401009

研究課題名（和文）：「大国」と少数民族—東南アジア大陸部山地における中国ヘゲモニー論を超えて

研究課題名（英文）：Changes in subsistence and culture : Ethnic minorities in the border regions between Southeast Asia and China

研究代表者：落合 雪野 (OCHIAI YUKINO)

鹿児島大学・総合博物館・准教授

研究者番号：50347077

研究成果の概要（和文）：本研究では、ミャンマー、ラオス、ベトナムと中国雲南省との国境地域に居住する少数民族に着目し、農業を中心とした生業活動の変化、健康管理の方法や生活文化の変容のあり方について現地調査をおこなった。その結果、国境地域の少数民族が、中国やタイといった「大国」から政治的、経済的、文化的圧力を受けながらも、日常生活においては、新たな生存戦略を確立していくプロセスを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study focused on recent changes in everyday life of ethnic minorities living in the border regions of Myanmar, Laos, Vietnam and China. Based on the field surveys on subsistence activities, health care and lifestyle, it was indicated that, although the regional powers of China and Thailand had hegemonic influence upon the border societies in the political, economical and cultural aspects, people behaved actively and wisely to create a new life strategy.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2009年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2010年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2011年度	2,600,000	780,000	3,380,000
年度			
総計	12,700,000	3,810,000	16,510,000

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：人文学 A、地域研究

キーワード：国際研究者交流、ミャンマー；ラオス；ベトナム、国境、少数民族、生業活動、生活文化、東南アジア地域研究、文化人類学

1. 研究開始当初の背景

1) 中国の東南アジア進出

最近 20 年間では、中国が東南アジアに進出する動きがさかんになり、とくに 2000 年以降、援助政策や経済投資が強化され、多数の中国人が東南アジア大陸部に移動した。東南アジア諸国はその援助政策を受け入れ、国境貿易のために経済特区を設けるなど、中国の進出をサポートしている。

とくにその状況が顕著なのが、ミャンマーである。アヘン用ケシ栽培撲滅を目的に、シャン州北部で中国企業が商店や工場、農園を開設、それに伴って多様な職業に従事する中国人が国境を越えて移住した。その結果、ムセーやラショウ、マンダレーはあたかも中国の都市のような景観を呈し、地元住民の生業や衣食住、健康管理など日常生活の端々にまで中国の影響が及ぶこととなった。

2) 国境の少数民族

このような状況から判断すれば、中国が主導権を握り、東南アジア諸国をその政治的、経済的、文化的影響下に取り込む「新植民地化」の動きと捉えることもできる。しかし、北京政府と東南アジア各国政府の中央対中央の関係をはなれ、国家と国家が境界を接する地域、つまり、雲南省とミャンマー、ラオス、ベトナムの国境地域に視線を移せば、その最前線で現実的に「大国」と接しているのは少数民族であることが指摘できる。

3) 国家と国家のはざま

東南アジア大陸部では、19 世紀までに盆地にタイ系住民の政権が点在し、山地ではさまざまな民族集団が森林資源や焼畑耕作に依拠した生活を送っていた。20 世紀初頭、この地域が四つの領域国家に分断された結果、国境周辺に居住する民族集団は周縁化され、国家のマジョリティとの対比から少数民族と位置づけられるに至った。つまり、国境周辺の少数民族は、自分たちを領域内に取り込んだ国家、その国家に隣接する国家など、東南アジアの「大国」の重層した影響下に置かれてきた。さらに 2000 年以降、中国から、人・モノ・資金・技術・情報が急激に流れ込んだ。

4) 先行研究

これまで東南アジア大陸部山地は、「照葉樹林文化圏」「シャン文化圏」「上座仏教世界」などと位置づけられてきた。Evans, Hutton and Eng (2000)では、中国と東南アジア国境域の政治経済や資源管理問題を総合的に議論されたが、その後、中国の影響は質的量的に拡大している。しかし、こうした事態に反して、本研究に類する先行研究(Sturgeon2005)はいまだ少ない。

2. 研究の目的

本研究では、ミャンマー、ラオス、ベトナムの 3 国が中国雲南省と国境を接する東南ア

ジア大陸部山地を対象に、東南アジアと中国の「大国」のはざままで暮らす少数民族が、国家レベルの政治的、経済的、文化的影響を受けつつも、自らの生活世界〔生業活動・健康管理・生活文化〕を能動的に変化させるプロセスを詳細に描き出し、政策決定やグローバルな経済原理に拮抗する、ローカルな生存戦略を明らかにする。

3. 研究の方法

2008 年度から 2010 年度までの 3 年間、ベトナム、ラオス、ミャンマーでの中国国境域で、①国境拠点における生業活動に関する現地調査、および、②健康管理と生活文化にかかわる通地域的調査を実施し、情報や資料を集積する。さらに③統合研究として、調査成果を国内研究会で報告し、各研究分担者の研究の進捗状況を相互に確認するとともに、2009 年度と 2010 年度におこなった雲南省での現地調査の結果や隣接諸地域で集められたデータと比較する。

具体的には、①国境拠点における生業活動調査については、松田がミャンマー、シャン州ムセーとその周辺の国境地域の事例を、横山がラオス、ルアンナムター県ボーテンとその周辺の国境地域の事例を、柳澤がベトナム、ラオカイ省ラオカイとその周辺の国境地域の事例をそれぞれ担当する。

②健康管理と生活文化の通地域的調査については、白川がマラリア対策に関連して、抗マラリア薬と化学繊維製蚊帳の使用状況を、落合が民族衣装に関連して、植物素材と人工素材の使用状況をそれぞれとりあげる。

以上の結果を踏まえ、2011 年度には補足調査を行ったうえで成果全体を総合化し、報告書の刊行と一般向けの講演会の開催によって成果を公開する。

4. 研究成果

(1) 成果の概要

本研究では、ミャンマー、ラオス、ベトナムの中国国境地域で、少数民族とよばれる人々が、中国やタイといった「大国」から政治的、経済的、文化的圧力を受けながらも、日常生活においては「大国」の影響を手なづけ、飼いならし、したたかに自らのアドバンテージを確立していくプロセスを明らかにすることができた。

これまで少数民族に関しては、ある種のステレオタイプ、つまり、「伝統的な生業や文化、自然と調和した暮らし」といった牧歌的なイメージ、またいっぽうでは「反政府組織の武装抵抗、麻薬取引や性的労働などの非法活動」といったアウトサイダー的イメージが提示されることが多かったが、本研究では、日常生活に即したリアルな生存戦略の実態を示すことができた。

その内容を、国境拠点における生業活動調査と、健康管理と生活文化の通地域的調査に分けて、以下に示す。

(2) 国境拠点における生業活動調査

1) ミャンマー北部国境地域

シャン州北部の中国国境地帯では、シャン人住民が近代的な稲作経営に成功し、高収入を実現している。一方、シャン州南部の山地部では、パオ人住民が灌漑畑作を展開し、焼畑農耕からの転換を成功させている。いずれの生業も、政府の支配をかいくぐる、あるいは政府との絶妙な間合いを維持することによって成り立っている。このような少数民族の日常的な生業活動からは、中央政府に対する抵抗戦略、武闘派の過激な抵抗とは異なる静かな抵抗のあり方が見出される。

2) ラオス北部国境地域

最近 10 年間、多くの中国企業が進出したラオス北部国境地域では、果物や野菜など多種多様な作物を栽培し、中国にむけて出荷するという契約栽培がタイ系住民などによって行われてきた。低地部に水田裏作として導入された契約栽培と比べると、山地部に導入された果物などの契約栽培は、急激かつ不可逆的な土地利用の変化を招いている。しかし、住民には経済的に大きな利益をもたらしている。

3) ベトナム国境地域

ベトナム北部山地ライチャウ省の中国国境沿に居住するモン人は、棚田で稲作をおこない、自家消費に米を生産すると同時に、かつてのケン、現在のカルダモンのように、さまざまな商品作物を栽培し、これを販売することで、外部世界と密接にかかわりあいながら生計をたててきた。このようなプロセスには、中国とベトナムのはざまに政治的、経済的に翻弄されながらも、自らの生存とより豊かな生活を確保するための対応力が見出される。

(3) 健康管理と生活文化の通地域調査

1) 健康管理

マラリアによる健康被害を回避する手段としての蚊帳に着目してみると、ラオス北部のタイ系住民は、もともと伝統的な木綿の蚊帳を使用してきたが、近年では近代的な化学繊維の蚊帳が中国やタイから国境を越えて入ってきている。タイ系住民の間における両者の消長、つまり、前者が使われなくなり、後者が浸透するプロセスを跡づけることによって、使われる蚊帳のモノとしての変化とその使われ方の不変性、モノの取捨選択をする地元住民の側の自立性が浮き彫りになる。

2) 生活文化

ラオスやミャンマーの少数民族の民族衣装は、中国やタイからのモノの流入や観光開発を背景に、ワタやアイなどの自然素材を使用した手染め手織りの日常着から、化学繊維

やプラスチック素材を使用した商品へと大きな変貌をとげている。その結果、民族衣装の新たなデザインや着こなしが実現され、とくにシャン人やカチン人については国境をはさんだ衣服製作の分業システムが成立している。

(4) 成果の公開

以上の研究成果は、次項 5 に示すような論文、学会発表、図書によって公開してきた。また 2009 年 8 月 22 日には、ミャンマー農業省（ミャンマー、ネピドー市）において、農業計画局セミナーを開催し、現地研究協力者に成果の一部を発表し、検討した。さらに、研究成果全体を総合し、最終的に単行本として出版する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 12 件）

①柳澤雅之 2012 「自然科学分野の地域研究—地域情報の限定性を克服するために—」『地域研究』12(2):116-130. (査読有)

② Matsuda, Masahiko 2011 “Intensification level of rice farming in Myanmar: Implication for its sustainable development. Environment, Development and Sustainability 13 (1): 51-64. (DOI: 10.1007/s10668-010-9247-7) (査読有)

③柳澤雅之 2011 「熱帯林の包括的な利用システムを考える」『日本熱帯生態学会ニューズレター』82:2-6. (査読無)

④横山智 2011 「焼畑再考—焼畑は環境破壊か?」『人文地理』63(2):64-67. (査読無)

⑤Junko MIYAMOTO and Yukino OCHIAI 2010 “Karyotype and 18SrDNA loci of edible Job’s tears (*Coix lacryma-jobi* subsp. *ma-yuen*) from Southeast and East Asia”, Tropical Agriculture and Development, 54(2):62-66. (査読有)

⑥松田正彦 2010 「ミャンマー・シャン州南部における山地農業の成り立ち—商業的農業と灌漑畑作の進展と系譜」『農耕の技術と文化』27:109-134. (査読有)

⑦田中耕司, 松田正彦 2010 「ミャンマー・シャン州中国国境域における稲作の変容—浸透する米増産政策と国境を超える農業技術」『農耕の技術と文化』27:86-108. (査読有)

⑧Yokoyama, Satoshi, 2010 “The Trading of Agro-forest Products and Commodities in the Northern Mountainous Region of Laos”, Southeast Asian Studies 47(4):374-402. (査読有)

⑨Matsuda, Masahiko 2009 “Dynamics of rice production development in Myanmar: Growth center, technological changes, and driving forces”, Tropical Agriculture and Development 53 (1): 14-27. (査読有)

⑩Dao Minh Truong, Kono, Y., Yanagisawa, M., Leisz S.J., Kobayashi S. 2009 “Linkage of forest policies and programs with land cover and land use changes in the Northern Mountain region of

Vietnam: A village-level case study”, Southeast Asian Studies 47: 244-262. (査読有)

⑪Leisz S. J., Kono, Y., Fox, J., Yanagisawa, M., Rambo, T. 2009 “Land use changes in the uplands of Southeast Asia: Proximate and distant causes”, Southeast Asian Studies 47: 237-243. (査読有)

⑫横山智 2008 「書評 People on the Move : Rural-Urban Interactions in Sarawak, Ryoji SODA」『地理学評論』81(7):605-607. (査読無)

〔学会発表〕(計 32 件)

①白川千尋 2012 「蚊帳をめぐる価値づけの変化と持続」国立民族学博物館共同研究会「プラント・マテリアルをめぐる価値づけと関係性」. (3/6 国立民族学博物館、吹田市)

②落合雪野 2011 「中国雲南省の少数民族によるジュズダマ属植物の利用—ミャンマー、ラオス国境域との比較から—」第 21 回日本熱帯生態学会年次大会. (5/29 沖縄県男女共同参画センターていりる、那覇市)

③落合雪野 2011 「東南アジアにおけるハトムギとその近縁野生種の利用」平成 23 年度九州沖縄農業研究センター産学官連携セミナー全国ハトムギ生産技術協議会夏の研修会. (8/19 九州沖縄農業研究センター、合志市)

④松田正彦 2011 「ビルマのタバコとシャンのタナペー—紫煙がたなぐ管区ビルマと少数民族山地」国立民族学博物館共同研究会「プラント・マテリアルをめぐる価値づけと関係性」. (10/29 国立民族学博物館、吹田市)

⑤Yanagisawa Masayuki 2011 “Nature-Inspired Technologies and Institutions: Perspective from Asia and Africa”, JSPS Global COE Program, The 5th International Conference In Search of Sustainable Humanosphere in Asia and Africa. (12/4 京都大学、京都市)

⑥横山智 2011 「東南アジア大陸部の統計未整備地域におけるフィールドワーク」第 8 回地理空間学会例会. (1/24 筑波大学、つくば市)

⑦横山智 2011 「ラオスの環境問題：森林資源・人間活動・環境政策の諸相と動態」第 6 回高等研究院レクチャー. (3/29 名古屋大学、名古屋市)

⑧横山智 2011 「ラオス山地部の土地・森林資源利用の変化」日本地球惑星科学連合 2011 年大会. (5/11 幕張メッセ国際会議場、千葉市)

⑨横山智 2011 「ラオス農山村地域の生と近年の変化」JICA 地球ひろば月間国別特集関連イベント、ラオス. (8/21 JICA 地球ひろば、渋谷区)

⑩Yokoyama, Satoshi 2011 “Changes in Shifting Cultivation and Farmers, Livelihood in the Mountainous Mainland Southeast Asia”, International Geographical Union, 2011 Santiago Conference. (11/15, Liberator Bernardo

O'Higgins Military School, Santiago, Chile)

⑪落合雪野 2010 「ジュズダマをめぐるハンディクラフト・ビジネスのゆくえ」国立民族学博物館共同研究会「プラント・マテリアルをめぐる価値づけと関係性」. (6/5 国立民族学博物館、吹田市)

⑫宮本句子・落合雪野 2010 「東南・東アジアのハトムギの染色体核型の変異」日本植物学会第 74 回大会. (9/9 中部大学、春日井市)

⑬松田正彦 2010 「ミャンマー水田稲作の集約化レベル—農家聞き取り調査からみた化学肥料投入と収量の実態」日本熱帯農業学会第 107 回講演会. (3/27 千葉大学、松戸市)

⑭松田正彦 2010 「ミャンマー・シャン高原南部の畑作農村における農業生態システムの変容—商業的農業への転換と灌漑畑作の発展」日本熱帯農業学会第 107 回講演会. (3/27、千葉大学、松戸市)

⑮横山智 2010 「モンスーンアジアの焼畑と自然資源利用」名古屋大学博物館第 14 回特別展「熱帯林—多様性のゆりかご—」特別講演会. (8/5 名古屋大学博物館、名古屋市)

⑯横山智 2010 「焼畑再考—焼畑は環境破壊の原因か？」人文地理学会第 10 回公開セミナー. (10/16 近畿大学、東大阪市)

⑰落合雪野 2009 「ラオス北部のアカ人女性によるジュズダマ属植物の利用—植物素材への価値づけをめぐる—」第 20 回日本熱帯生態学会年次大会. (6/20 大阪市立大学、大阪市)

⑱落合雪野 2009 “Edible Job's tears in the Food Culture of Southeast Asia, Korea and Japan”, Breeding, Cultivation, Processing and Health Functionality of Adlay and Buckwheat. (6/29 中興大学、台中市、台湾)

⑲Yukino OCHIAI 2009 “From Forests to home gardens: A case study on *Ensete glaucum*, a useful plant in Myanmar and Laos”, The second international conference on forest-related traditional knowledge and culture in Asia. (11/2 西南林学院、昆明市、中国)

⑳落合雪野 2009 「焼畑のゆくえ—ラオス北部における森林と生業の変化」鹿児島大学農学部農学セミナー. (12/22 鹿児島大学、鹿児島市)

㉑横山智 2009 「焼畑は環境を破壊するか？—ラオスの事例を中心に—」名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学の夕べ. (5/20 名古屋大学、名古屋市)

㉒落合雪野・横山智 2008 「ラオス北部山村の住民による焼畑をめぐる生業活動—空間認識と植物利用からのアプローチ—」第 18 回日本熱帯生態学会年次大会. (6/22 東京大学、文京区)

㉓落合雪野 2008 「ナガ・ニューイヤー・フェスティバルに集う人びと—ジュズダマ属の利用に関する一視点」民族自然誌研究会第 52 回例会. (7/19 京都大学、京都市)

②④柳澤雅之 2008 「東南アジア生態史の構築に向けて」 第 79 回東南アジア学会セッション『東南アジア生態史の構築に向けて』.(6/8 大阪大学、豊中市)

②⑤柳澤雅之 2008 「地域社会の制度や社会に埋め込まれた自然環境条件を探る」 第 1 回地域研究方法論研究会.(11/14 東京大学、文京区)

②⑥Yokoyama, Satoshi 2008 “Political Ecology of Livelihood and Land Use in Rural Laos , The 31st International Geographical Congress. (8/13, Le Kram, Tunis, Tunisia)

②⑦横山智・落合雪野 2008 「ラオス北部農村の土地利用と生活の変化—開発援助と拡大する中国経済による影響—」 第 18 回日本熱帯生態学会年次大会.(6/22, 東京大学、文京区)

②⑧横山智 2008 「ラオスの無塩発酵大豆食品『トウアナオ』の伝播に関する文化地理学的考察」 第 1 回東南アジアの生態史研究会.(7/4 総合地球環境学研究所、京都市)

②⑨横山智 2008 「ラオスの森林区分と時空間マッピングの展望」 「大陸部東南アジア仏教圏の文化実践の動態をめぐる時空間の位相」 2008 年度第 2 回研究会.(8/2 猿沢荘、奈良市)

②⑩横山智 2008 「消えるラオスの焼畑」 日本地理学会 2008 年秋季学術大会.(10/5 岩手大学、盛岡市)

②⑪横山智 2008 「GIS を援用した海外調査」 国土地理院電子国土構築セミナー.(11/18 熊本大学、熊本市)

②⑫横山智 2008 「ラオスの無塩発酵大豆食品の伝播に関する文化地理学的考察」 2008 年人文地理学会大会.(11/8 筑波大学、つくば市)

〔図書〕(計 14 件)

①落合雪野著、クリスチャン・ダニエルス監修 2012 『アジアの自然と文化 3 雑穀からみる東南アジア—自然を使いこなすくふう—タイ・ラオス・ミャンマーなど』小峰書店 pp59.

②落合雪野 2012 「ジュズダマ属にみる人と植物の関係」 戸部博・田村実編、日本植物分類学会監修『植物分類学—新しい分類体系と研究のあゆみ』講談社 205-209.

③柳澤雅之・河野泰之・神崎護・甲山治 2012 『地球圏・生命圏と人間圏の相互作用から見た熱帯社会の生存基盤』京都大学学術出版会 pp454.

④河野泰之・横山智・瀬戸裕之・田中耕司 2011 『現代ラオスの社会・環境の変化と継続性—2011 年 8 月のインタビュー記録—』 Kyoto Working Papers on Area Studies No.122, 京都大学東南アジア研究所.

⑤横山智 2011 「生物圏 I —被食者と捕食者」 J. R. マニール著、海津正倫・溝口常俊監訳『20 世紀環境史』名古屋大学出版会 152-178.

⑥横山智 2011 「生物圏 II —森林、魚類、侵

入」 J. R. マニール著、海津正倫・溝口常俊監訳『20 世紀環境史』名古屋大学出版会 179-209.

⑦横山智 2010 「焼畑民の暮らし—複合的な生業形態とその変化」 菊池陽子・阿部健一・鈴木玲子 編『ラオスを知るための 60 章』明石書店 57-61.

⑧横山智 2010 「現金収入は魅力的—商品作物栽培」 菊池陽子・阿部健一・鈴木玲子編『ラオスを知るための 60 章』明石書店 94-98.

⑨横山智 2010 「非合法アヘン生産」 菊池陽子・阿部健一・鈴木玲子編『ラオスを知るための 60 章』明石書店 106-108.

⑩横山智 2010 「観光立国に向けて—エコツーリズムの可能性」 菊池陽子・阿部健一・鈴木玲子編『ラオスを知るための 60 章』明石書店 109-113.

⑪横山智 2009 「ラオスにおけるバックパッカー地区の形成」 神田孝治 編『観光の空間—視点とアプローチ』ナカニシヤ出版 78-88.

⑫横山智 2009 「ラオス焼畑民の変容」 春山成子・藤巻正己・野間晴雄編『朝倉世界地理講座第 3 巻東南アジア』朝倉書店 196-206.

⑬横山智 2008 「タイ・ラオスのエスニック社会」 山下清海編『エスニック・ワールド—日本と世界のエスニック社会』明石書店 176-187.

⑭横山智 2008 「エスニック・ツーリズム」 山下清海編『エスニック・ワールド—日本と世界のエスニック社会』明石書店 188-189.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

落合雪野 (OCHIAI YUKINO)
鹿児島大学総合研究博物館・准教授
研究者番号：50347077

(2) 研究分担者

白川千尋 (SHIRAKAWA CHIHIRO)
国立民族学博物館・先端人類科学研究部・准教授
研究者番号：60319994

松田正彦 (MATSUDA MASAHIKO)
立命館大学・国際関係学部・准教授
研究者番号：60434693

柳澤雅之 (YANAGISAWA MASAYUKI)
京都大学・地域研究統合情報センター・准教授
研究者番号：80314269

横山智 (YOKOYAMA SATOSHI)
名古屋大学・大学院環境学研究科・准教授
研究者番号：30363518